季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM QUARTERLY

64

春の企画展

化石芸術

福島県立博物館

ミミズ型の動物が掘ったトンネルの跡？
香川県財田町　白亜紀（7000万年前）

ドイツ人の古生物学者であるアドルフ・ザイラッハー氏を中心とするチームが、世界各地の地層から興味深い化石を収集しています。それは、およそ六億年前の骨格をもたない不思議な生物たち、三葉虫が這った跡、爬虫類の足跡など、地層の表面に残された生物や生物の行動の跡です。ちょっと見るととても化石に見えません。これらは奇妙で幾何学的な形や模様をもっており、何かの前衛芸術のようです。

このたび、「化石芸術」展実行委員会が日本側の窓口となり、この標本をドイツ・チュービンゲン大学地質学研究所から借りてきました。そして日本の博物館で展示会を巡回することとなりました。企画展のタイトルは「化石芸術」、名付け親はザイラッハー先生、英語ではFossil Art「化石芸術」はその直訳です。芸術とは本来人間が創造するものですが、ユニークな芸術作品に慣れている現代人にとっては、自然の造形も魅力的な芸術として楽しめるという発想です。

展示する標本は、今から一八億年前の先カンブリア時代以降の地層に残されたもので、全部で約五〇点です。具体的には次の三つに分けられます。

一、地層に残された奇妙な跡

水流によって海底に形づくられた漣痕（リップルマーク）、乾燥により泥の層に生じた亀裂（マッドクラック）など、生物の作用ではなく物理的に生じたさまざまな現象を取り上げます。

二、エディアカラ動物群の不思議な世界

生物そのものの形態を現す化石です。特に南オーストラリアやカナダの地層から発見された、骨格や殻をもたない謎の生物「エディアカラ動物群」に焦点を当てます。この動物群の活躍した時代は先カンブリア時代末の約六億年前で、この直後、生物進化に大変革が起きました。ザイラッハー先生の研究の核心部分です。

三、這い跡、足跡、巣穴の跡

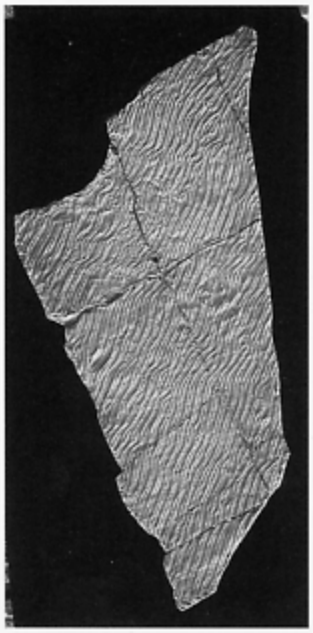
三葉虫やミミズの這い跡、爬虫類の足跡、エビの巣穴、シーラカンスのヒレの跡など、動物の行動の跡である生痕化石を展示します。生痕化石を扱った展示は世界的にもめずらしいものです。今回の展示の中で多数を占めます。

展示する標本はほとんど地層面から型取りをしたレプリカ（複製）です。大きな地層面を露頭から持ち帰ることができないので、現地でゴムを使って型を

春の企画展

化石芸術 —太古の生物が描く美の世界—

●会期　平成14年4月27日（土）～6月30日（日）



リップルマーク（さざ波の痕跡）
インド中部　先カンブリア時代（11億年前）

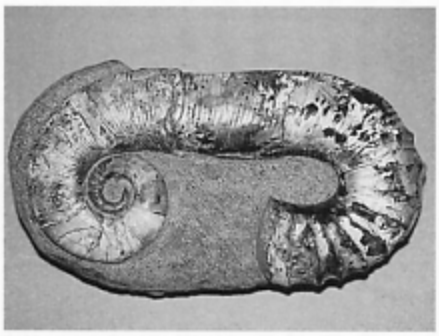
ミミズ型の動物の巣穴
リビア南部　シルル紀（4億2000万年前）

取り、プラスチックを流し込んで作りました。レプリカはもとの形や色を忠実に表現したすばらしいもので、これもひとつの芸術と言えましょう。それぞれの標本にはそれがどのようにしてできたかの説明が付けられています。ザイラッハー先生は、従来の説にとらわれないユニークで合理的な説明をしています。しかし、それでも生物の正体がよくわからないものがたくさんあります。

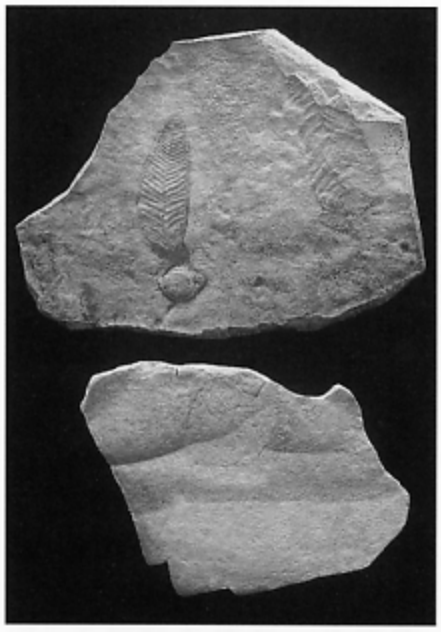
このチュービンゲン大学の化石コレクションのほかに、展示の第二部では、化石の中でも特に美しい形態や装飾をもつアンモナイトを集めてみました。福島県から発見された化石がたくさん登場します。化石の王者アンモナイトがもつ魅力を体験してください。

この展示は、化石の芸術展と科学展を併せ持つユニークな企画展です。化石などにあまり知識のない方にとっても、一風変わった芸術として鑑賞することができます。化石に関心のある方にとっては、生物の正体の謎解きをする楽しみを味わえます。講演会など関連する催し物もたくさん用意します。ぜひご家族、ご友人と連れ合ってお越しください。

（自然担当　竹谷陽二郎）



アンキロセラス
ロシア　白亜紀



エディアカラ動物群　オーストラリア南部
先カンブリア時代（5億7000万年前）

■企画展《化石芸術》は平成一四年四月二七日（土）から六月三〇日（日）まで開催しています。
■観覧料　一般・大学生三〇〇円（二四〇円）高校生一七〇円（一四〇円）小・中学生一二〇円（九〇円）（　）は二〇名以上の団体の場合の料金です。

※常設展を観覧する場合には、別に常設展観覧料が必要です。

企画展関連行事のお知らせ

○企画展記念講演会
「地層に記録された生命と地球の歴史」
講師　大野照文 氏（京都大学総合博物館教授）
日時　五月一二日（日）午後一時三〇分より

シリーズ自然史
○自然史講座
「三葉虫をよみがえらせよう」
講師　大野照文 氏（京都大学総合博物館教授）
日時　五月一一日（土）午後二時より

○自然史講座「化石をさがそう」
講師　相田　優（当館学芸員）
日時　五月二五日（土）午前八時三〇分より

○自然史講座「化石標本をつくろう」
講師　竹谷陽二郎（当館学芸員）
日時　五月二六日（日）午後一時三〇分より

○映画会「化石の形と機能」
講師　竹谷陽二郎（当館学芸員）
日時　六月九日（日）午後一時三〇分より
※映画会以外の参加申込みは、四月一一日（木）より受け付けます。

○企画展展示解説会
講師　竹谷陽二郎（当館学芸員）
日時　四月二八日（日）午後一時三〇分より
五月一二日（日）講演会終了後
六月九日（日）映画会終了後

講演要旨　収蔵資料品展記念講演会

平成十四年二月十七日（日）

「小平潟天満宮の御宝物」

講　師　猪苗代町文化財保護審議委員長　榊原　源隆　氏

講師の榊原源隆氏は猪苗代町の文化財調査に長く携わり今回の小平潟天満宮の御宝物の再発見、調査にも中心的な役割を果たされました。

＊冒頭のお話

昨年平成十三年（二〇〇一）は菅原道真没後一一〇〇年の記念の年でした。そのような年に小平潟天満宮の御宝物が県立博物館に寄託、展示されたことを感謝いたします。

小平潟天満宮には県指定文化財の「八代集秀逸和歌」、猪苗代町指定の本殿をはじめ多数の文化財があります。平成一〇年に猪苗代町教育委員会の予備調査が、平成十一年には県立博物館も加わった本格的合同調査が行われました。その結果、宝物の価値が確認され、一括で「小平潟天満宮所蔵信仰資料」として平成十二年に猪苗代町の有形民俗文化財の指定を受けました。

宝物が収蔵されていた社殿が高床でそこに西風が吹き、これが正倉院の校倉のような働きをして三〇〇年の間御宝物が守られてきたのだと思われます。

会津地方には三月の節句に男の子は会津天神や天神画像を祀る風習があります。聡明で立派な人になるようにとの願いを込めたものです。会津若松には天神町が、喜多方には菅原町があります。各地に残る天神社や地名が天神信仰の広がりを表しています。

道真没後一一〇〇年にあたる昨年は北野天満宮、太宰府天満宮をはじめ各地の博物館・美術館の協力のもと東京国立博物館で「天神様の美術」展が開催されました。小平潟天満宮の宝物の理解にも大変勉強になる有意義な催しでした。

＊天神縁起についての解説

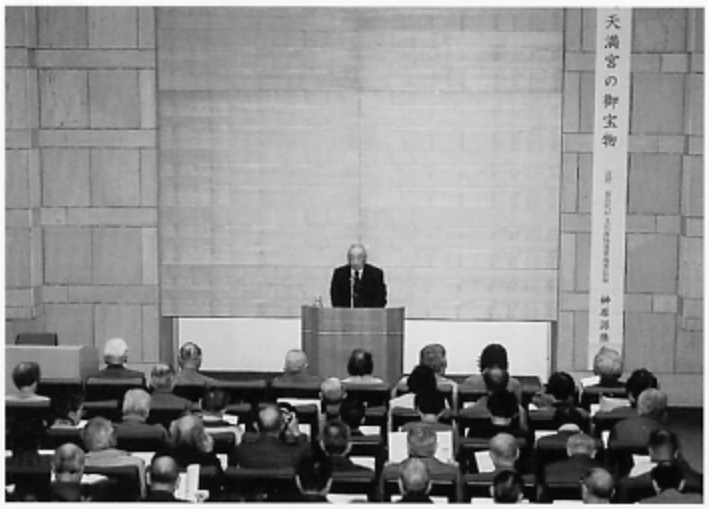
天神縁起は基本になるものとして鎌倉時代の伊勢神宮文庫蔵のものがあります。その他北野天満宮には建久本、承久本があります。中でも絵のある承久本は国宝として良く知られたものです。こうしたものを受けて室町時代から江戸時代には類似の天神の一代記がさかんに描かれ説教の材料になりました。こうして天神信仰が広く普及したのです。

各地の天満宮で縁起が作られました。「小平潟天神宮縁起」もそうしたものの一つですが、まず道真の生涯、北野天満宮の由来が書かれています〈ここで菅原道真の家系、生涯と北野天満宮の始まりについて解説があった〉。続いて小平潟に天神が祀られるいきさつが記されていますが、注意したいのは文中に登場する「旅僧」が比良神宮の神主「神良種」と書き変えられている点です。これは明治の頃、神仏分離の考え方からなされたものでしょう。次に連歌師の猪苗代兼載のことが書かれています。猪苗代出身の兼載は華名盛実であるという説もあるので調べてみましたがそれは当てはまりませんでした。また兼載は若松の自在院で僧になりますが、その時の僧名も今では分かりません。

＊図録を使い各出品資料を解説

〈各解説の詳細は省略するが次の指摘は興味深いものであった〉奉納された宝物の他に祝詞・裁許状などがありますが、それらを見ると土津神社の神主が小平潟天満宮の遷宮などにかかわっています。これで思うことが、天満宮の扁額です。現在の扁額は写しで、天皇の筆になるもとあった扁額は現在どこにあるのか分かりません。現在でも土津神社の神庫にしまわれているのかもしれません。

《会場は猪苗代町からのバスツアーに参加された方々を含む熱心な聴講者でほぼ満席となった。講演終了後の展示室でもその熱気は冷めなかった》



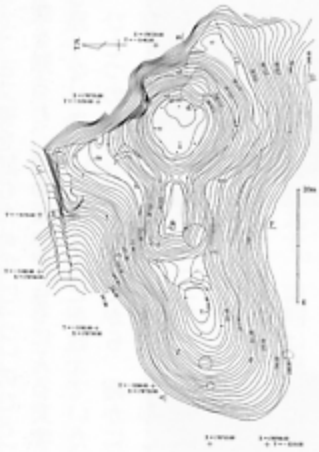
研究ノート

長井前ノ山古墳の発掘調査

菊地芳朗　考古担当

県立博物館の考古学分野は、研究事業として会津地域の古墳の総合的な調査をおこなっています。そのなかで、会津坂下町にある長井前ノ山古墳を詳細な調査の対象に選び、一九九九年から現地調査を続けてきました。今回は、昨年実施した第二次発掘調査の成果についてご報告します。

長井前ノ山古墳は、阿賀川（大川）を望む山地の上に築かれた全長三六㍍の前方後円墳です（左図）。自然の丘陵を削り、その土を盛り上げることで形がつくられており、古墳の高さは最も高い後円部で約四㍍になります。後円部に比べると前方部の長さや幅がやや小さく、後円部が階段状に二段つくられるという特徴があります。葺石や埴輪などの外表施設はなく、今のところ壺や甕などの土器も出土していません。前方後円墳としては比較的小型ですが、ボリュームのある、しっかりとしたつくりの古墳です。


長井前ノ山古墳全体図

前方後円墳のばあい、一般に遺体を納める部分（埋葬施設）が後円部に穴を掘って設けられています。後円部を掘り下げたところ、深さ約三〇㌢の位置で、直径二・五㍍の穴に大量の川原石が詰め込まれた遺構を確認しました。穴の底には板石組みの施設があり、板石の上から密教法具である独鈷杵一点と刀子四点が出土しました。検討した結果、この板石組み施設は埋葬施設の石棺の一部であり、最初に確認した穴は中世に掘られたもので、その時に石棺が開けられて再利用されていると考えられました。

合掌形石室と内部から出土した中世の壺

全体を確認した石棺は、箱形の身（遺体を入れる部分）に、天井（蓋）石が家の屋根のように架けられる構造をしていました。このような構造をもつ石棺は「合掌形石室」と呼ばれます。棺身の大きさは内のりで長さ一九〇㌢、幅五五㌢です。用いられた石材は会津地方で一般に産出する安山岩系の石のため、現在のところ産出地は特定できていません。板石の数は、棺身では長辺（側板）が五枚、短辺（小口板）が二枚、底板が三枚で、天井では四対八枚です。天井が架けられた後、小さめの板石と粘土で隙間が埋められ、さらに棺全体が粘土と大き目の川原石によってしっかりと包まれています。その後、墓穴全体が丁寧に埋め戻されていました。

石棺内からは平安時代終わりごろの壺が完全な形で出土し、中世に石棺が再利用されたことが確かめられました。しかし、肝心の古墳の副葬品はまったく出土しませんでした。現在のところ、中世にすべて持ち出されてしまったか、あるいは、最初からまったく副葬品が納められなかったのかのいずれかと判断せざるをえません。

今調査の直接の成果をあげると、おおよそつぎのとおりです。

①合掌形石室が福島県内で初めて確認された。

②前方後円墳に確実にともなう合掌形石室は、長井前ノ山古墳が全国初の例である。

③合掌形石室の詳細な構造とつくり方が判明した。

④石室の構造から、古墳が築造されたのは古墳時代中期の五世紀と考えられる。

合掌形石室は国内で約六〇例が確認されていますが、四例をのぞくすべてが長野県の長野盆地に分布します。長野盆地以外の四例は、山梨県豊富村王塚古墳、山形県南陽市松沢古墳群（二例）、そして長井前ノ山古墳です。また、これまで確認された合掌形石室をもつ古墳はほぼすべて小規模な円墳でしたが、長井前ノ山古墳は各地域で最も有力な人物が葬られた前方後円墳であり、その点でも重要な存在です。石棺内から骨や歯が出土しなかったため、葬られた人の性別や年齢は不明ですが、五世紀としては数少ない古墳の一つで、埋葬施設や古墳そのものが非常に丁寧につくられていることからみて、その人物は、少なくとも会津盆地西部一帯に勢力をもった有力者と考えてよいでしょう。

これまで、古墳時代中期は会津地域に大型古墳がつくられなかった「空白期」と考えられてきましたが、長井前ノ山古墳の調査はこの考えに根本的な見直しをせまるものとなりました。また、長野盆地、会津盆地、米沢盆地という日本海側の各地域が、合掌形石室をもつ古墳の分布によってつながり、少なくともこれらの三地域が五世紀に密接な交流をもっていたことを推測できるようになりました。以上のように、今回の調査によって、五世紀の会津地域の社会や政治のあり方を検討するための数多くの重要な成果をあげることができたと考えられます。発掘調査は終了しましたが、記録と出土遺物の整理が今後に残されています。整理を進めるなかから、長井前ノ山古墳のもつ意味や周囲の社会について、会津地域ばかりでなく東日本地域や日本列島全体のなかで考えていきたいと思います。

石棺の身の全景

古文書の読み方 巻之二

Q&A

回答者
歴史担当
酒井耕造

Q：第五一号で、古文書を読むための「コツ」のひとつ、「古文書の構成を知ると、読めないところに入る文字や語句が推定し易くなります」ということを教えていただいた者です。ひとつの「コツ」を知ってから、確かに読めない文字を探すのが楽になりました。でも、学ぶことに関してはどん欲な私です。もっと「コツ」があれば教えて下さい。宜しくお願いします。

A：古文書解読の「コツ」は、この「Q&A」一回では書ききれないほどいくつもあります。前回は横帳の表紙の読み方の「コツ」をお教えしましたので、今日は「一紙もの」の表題の読み方の「コツ」を取り上げたいと思います。

一紙ものとは、帳面になっていない古文書のことです。

一紙ものの多くには、表題が付いています。その表題の文章は、大体決まっています。そして、文章が決まっているということは、使われている文字も限られているのです。次の表は、一紙ものの表題の代表的なものです。一紙ものの表題を読んでいて分からない文字があったときには、一度これを見て下さい。「これかな？」と思う文字があるかもしれません。

相極申一札之事	定
相定申手形之事	質地証文之事
相渡申質地証文之事	質券請状之事
預り申金子之事	借用申証文之事
一札之事	済口証文之事

縁付御暇被下度願之事	奉差上御請書之事
乍恐以口上書申上候	人別送一札之事
乍恐以書付奉願上候	申渡
乍恐以書附御届奉申上候	○年御年貢可納割付之事
乍恐以返答書奉願上候事	○○之内○○村当免之定
御尋ニ付口上之覚	○○郡○○組○○村御成箇割附事
覚	○○郡○○郷○○村定免之覚
差上申一札之事	○○郡○○村御年貢可納割付之事
指上申手形之事	○年御年貢皆済目録

では次にこの表を使って練習してみましょう。写真を見て下さい。これは、五点の一紙ものの表題だけを撮影したものです。分からない文字があったときは、表を参考にしてみて下さい。如何ですか。ひとつの表題全てが同じものはなくても、この写真にある全ての熟語と文字は、表の中にあるはずです。たとえば、写真の一番左の表題は「差上申証文之事」と書いてあります。表の中には同じ表題はありませんが、「差上申」と「証文之事」に分解してみれば、「差上申一札之事」にありますし、「証文之事」は「相渡申質地証文之事」等にあります。写真の中で分からない文字があった場合には、この表と比べてみれば、ヒントが得られるかもしれません。

この春には、教育普及図書『ふくしまの古文書』を出版する予定です。この本では、古文書の保存のことと、今日お話ししましたような、古文書解読のヒントについて書きました。もし、機会がありましたら、博物館にいらっしゃったときに御覧になって下さい。

右から
「以返答書申上奉候」
「金子借用証文之事」
「御尋ニ付御答之事」
「乍恐以書付奉願上候」
「差上申証文之事」
当館寄託　下郷町　佐藤仁夫家文書

トピックス

記録映像完成間近!!

一三年度の映像作成は只見町を舞台に雪のよそおい、「カンゼンブシ」と「フカグツゲンベエ」の製作記録です。

現地での撮影は無事全日程を終了し、残すは編集作業のみ。この博物館だよりがみなさまのお手元に届くころには、完成しているはず。

さて、今回の撮影では、素材を集めるところからはじめました。山に分け入り木の皮をはがし、草を集め、選別し保存しておく。そうした夏の作業が冬の間の製作の前提としてあるのです。雪が降り始めるころになると、編む作業になります。

作業についての説明を主役の方に思う存分語っていただきました。語りと映像が絡み合った、興味深い記録映像が完成するはずです。五月四日午後二時より講演と試写会があります。自然の中に生かされた技術の素晴らしさを楽しんでください。

カンゼンブシを被り、フカグツゲンベエをはいた主演の長谷部孝一さん

雪の中　何回も撮影は続く

作業場での撮影風景

山に入りシナ皮はぎを記録する
急斜面にスタッフも大変

◎今度の夏の企画展

「雪村」

戦国時代のスーパー・エキセントリック

海外からの里帰り作品を含む大規模な雪村展がいよいよ開催されます。

雪村周継（せっそん　しゅうけい）は一六世紀、関東東北で活躍した水墨画家です。戦国大名佐竹氏の一族として常陸国（茨城県）に生まれ、小田原、鎌倉、会津などを遍歴し、晩年は三春に落ち着きました。福島の戦国武将葦名氏や田村氏のもとで活動した雪村はまさに戦国に生きた画人で、その絵も覇気に溢れています。展覧会名に「戦国時代」とあるのもこのためです。

本展では、雪村ならではの大胆で強烈な表現意欲を皆さまにお伝えしたいと思います。

海外に多くの優品が流出している雪村の大規模な展覧会は実現がむずかしく、雪村ゆかりの会津、三春を抱える福島県でも昭和五八年の三春町歴史民俗資料館での雪村展以来、まとまって雪村の絵が紹介されたことはありません。生誕地の茨城県と並んでゆかりの深い福島県での開催には意義深いものがあります。巡回の最終会場になる地元での大規模な雪村展。またとない機会です。どうぞお見逃しなく。

雪村筆「瀟湘八景図帖」中「遠浦帰帆図」
（個人蔵・福島県立博物館寄託）

■企画展（雪村）は平成一四年八月一〇日（土）から九月二三日（月）まで
■観覧料（予定）　一般・大学生五〇〇円／高校生三〇〇円／小・中学生二〇〇円

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「商家の婚礼―明治時代の婚礼の宴」
会期　四月九日(火)から五月二六日(日)まで
「会津藩の編纂物」
会期　六月四日(火)から七月二八日(日)まで

講演・講座

◎実技講座
「古文書入門1　古代①」
講師　当館学芸員　佐藤洋一
日時　四月二七日(土)午後二時
「古文書入門2　古代②」
講師　当館学芸員　佐藤洋一
日時　五月二五日(土)午後二時
「古文書入門3　近世①」
講師　当館学芸員　酒井耕造
日時　六月二二日(土)午後二時
「子どものための草木染め教室」
講師　染織工芸家　山根正平さん
　　山根好子さん
日時　六月一五日(土)午前一〇時
◎企画展記念講演会
「地層に記録された生命と地球の歴史」
講師　京都大学総合博物館教授
　　大野照文さん
日時　五月一二日(日)午後一時半
◎企画展展示解説会
「化石芸術―太古の生物が描く美の世界」
講師　当館学芸員　竹谷陽二郎
日時　四月二八日(日)午後一時半
　　五月一二日(日)講演会終了後
　　六月九日(日)映画会終了後
◎自然史講座
「三葉虫をよみがえらせよう」
　　(企画展記念講座)
講師　京都大学総合博物館教授
　　大野照文さん
日時　五月一一日(土)午後二時
「化石をさがそう」(場所未定)
講師　当館学芸員　相田　優
日時　五月二五日(土)午前八時半
「化石標本をつくろう」
講師　当館学芸員　竹谷陽二郎
日時　五月二六日(日)午後一時半
映画会
「化石の形と機能」
講師　当館学芸員　竹谷陽二郎
日時　六月九日(日)午後一時半
◎美術講座
「福島の仏像　25」
講師　当館学芸課長　若林　繁
日時　五月一八日(土)午後一時半
◎映画会
「只見の手仕事」
講師　当館学芸員　佐々木長生
日時　五月四日(土　国民の休日)午後二時

実演

場所　体験学習室　入場無料

◎「昔語り」
語り部　横山幸子さん
日時　四月二一日(日)
　　五月三日(金　憲法記念日)
語り部　山田登志美さん
日時　六月一六日(日)
◎「機織り」
染織工芸家　山根正平さん
日時　四月二九日(月　みどりの日)
◎「会津の唐人凧つくり」
技術伝承者　鈴木英夫さん
日時　五月一九日(日)
◎伝統技術実演
「須賀川の絵のぼり製作」
技術伝承者　大野修司さん
日時　五月五日(日　こどもの日)
　　午後一時半
＊「須賀川の絵のぼり製作」を除く実演は、午前一〇時半からと午後一時からの二回行われます。

常設展無料開放日

五月五日(こどもの日)
＊小・中学生、高校生は、学校が休みの日は、常設展示室が無料開放されます。

四～六月の休館日

四月　一日(月)・八日(月)・一五日(月)・二二日(月)・三〇日(火)
五月　七日(火)・一三日(月)・二〇日(月)・二七日(月)
六月　三日(月)・一〇日(月)・一七日(月)・二四日(月)

＊金曜講座に関しては、四月一日以降、詳しい日程をお知らせします。

季刊博物館だより　第64号　2002年3月1日発行　編集・発行　福島県立博物館　〒965-0807 会津若松市城東町1―25　TEL 0242-28-6000　印刷　株式会社アポロ　会津若松市七日町14―7　TEL 0242-22-5139
福島県立博物館